

# 感謝込め 遺品寄贈

## 戸田中央総合病院の中村隆俊記念館

### 美空ひばり常設展示

戸田本市町の戸田中央総合病院の中村隆俊記念館(総合健康管理センター)に、戦後日本を代表する歌手・美空ひばりさん(1937〜89年)の遺品を展示した「美空ひばり常設展示」が6月30日オープンした。

同病院の創設者で戸田中央医科グループ会長の中村隆俊さん(93)は、青年医師の頃に、兄哲夫さん(板橋中央総合病院創設者)と弟秀夫さん(上尾中央総合病院創設者)と交代で、小中学生時代の3年間、ひばりさんの家庭教師を務めた縁を持つ。(岸鉄夫)

禍の最前線で闘った中央総合病院の方々へのエールを込めて母の遺品を寄贈します」と祝辞を述べた。

出身の隆俊さんの自慢は「ひばりにアイススケートを教えたのは俺だ。こうした縁で同記念館のリニューアルを機

念い、和也さんが「お礼に」とひばりさんの愛用の和服1着を寄贈した。

テフカットで、加藤さんは「母から『この方たちのおかげで学校を卒業できたのよ』と若き日の中村先生のお話がよく聞いた。小学校6年生から歌の道へ入った母は、小中学校の勉学の一番大事な時期に中村先生に教わった」と感謝の思いを語った。

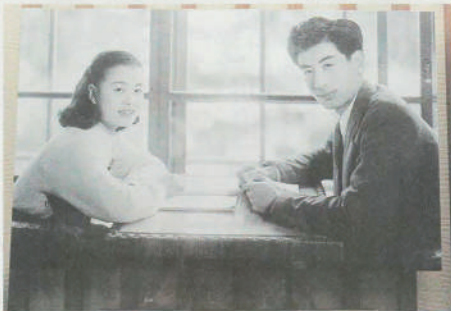
コロナ禍で、感染予防のためテフカットのセレモニ

は簡略化。隆俊さんはリモートで画面越しに出席し、アイススケートを教えたときは何度も転んで悔しくて泣いていた。あの幼い天才、ひばりちゃんを思い出して胸が熱くなったとメッセージを寄せた。

常設展示では、ひばりさんの愛用の遺品の和服1着のほか、少女時代のノートや写真などが展示されている。



テフカットに参加した中村隆俊さんの妻 隆俊さん(中央のいす)。その両脇に加藤和也さんと有香さん。6月30日、戸田市



展示された写真の一枚。青年医師で家庭教師の中村隆俊さん(右)に勉強を教わる美空ひばりさん(左)。戸田市

【又文】 隆俊さんは1950年北海道大学医学部を卒業し東京。4月から、東京医科大学でインターンとして働いていた。当時東京医科大学の医局勤務の医師だった兄哲夫さん、東京医科大学の医学生だった弟秀夫さん(と、牛込栄来町(現新宿区栄来町)で共同生活をしていた。

ひばりさんの家庭教師を引き受ける経緯について、隆俊さんによると、「50年7月、父、渋谷の外科医院で当直勤務のアルバイトをしていた哲夫さんの誠実な人柄を見込んだ外科学院長が「ひばりの家庭教師を探してほしい」と頼まれていた。やる気はないか」と持ち掛けられ、3兄弟で引き受けたいと。当時はラーメンが1杯25円。哲夫さんの話によると、当直のバイト代は1晩500円、ひばりさんの家庭教師の報酬は1時間1000円だった。